

2018年
6月

株主通信

セコム株式会社

第57期決算報告



「セコムグループ2030年ビジョン」 実現に向けた一里塚として 「セコムグループ ロードマップ2022」を策定

当期の経営成績、「あんしんプラットフォーム」構想の実現に向けて成長を加速するために今年5月に策定した「セコムグループ ロードマップ2022」について、社長の中山泰男からご説明させていただきます。

中山 泰男

セコム株式会社 代表取締役社長



当期の経営成績について

当期のセコムグループの経営成績は、当社の連結業績予想をすべてにおいて上回る実績を残すことができました。かつ連結売上高、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益については増収増益を達成し、過去最高の成績を収めることができました。

これは「社員満足を原点」とした全員経営のもと、2030年に目指す姿をセコムグループの社員一人ひとりが共有し、それに向けて高い目的意識と主体性を持って業務に精励した結果です。

「あんしんプラットフォーム」構想の 実現に向けた取り組みについて

2030年ビジョンの公表から1年。変わりゆく社会に、変わらぬ安心を届けていくために、セコムは変わり続けています。

例えば、「セコム・ホームセキュリティ」では、防犯にコネクする（つながる）サービス第1弾として健康管理・救急時対応サービス「セコム・マイドクターウォッチ」を、その第2弾として宅配の再配達問題の解決にも貢献する「セコムあんしん宅配ボックス」を発売するなど、ご家庭向けのサービスも進化させています。

また、今後さらなる安心が求められるIoTセキュリティ基盤の開発、物流などの安全なサプライチェーンの構築、ドローンを活用したシカの食害対策、人手不足に対応した施設運営の新たなビジネスモデル構築など、さまざまな分野で当社と想いを共にするパートナーとのオープンイノベーションも活性化しており、新たな価値を創造しております。

今年5月、新たに策定した 「セコムグループ ロードマップ2022」について

2030年ビジョンの実現に向けて邁進していく中、特に顕著になってきた社会動向を優先課題として捉え、ニーズを先取りして適切に対応していくことで、成長の角度をさらに上げていくことができると考えました。

そこで、2030年に目指す姿へ到達するために、今何をすべきかをバックキャスティング*の思考で整理し、2022年を一里塚とした「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。

二つの優先課題を大きなチャンスへ

ロードマップでは、優先して取り組む課題を二つ明確化しました。一つは、「テクノロジーの進化」です。急速にIoTの普及が進み、さまざまなものがインターネットとつながっていくにつれ、フィジカルとサイバーが融合した「つながる社会のセキュリティ」需要が大きく高まっています。

もう一つは、「労働力人口の減少」です。共働きの増加などにより、子供や高齢者の見守りニーズが高まるほか、多くの企業でビジネスの省人化・省力化を推進するために、ノンコア業務を外部に委託する「誰かに頼みたい」需要が急速に高まる一方、その委託先で万が一のことがあった際、コア業務にも悪影響を及ぼしかねないことから、セキュアなサポー

ト業務の引き受け先が求められています。

セコムには、長年にわたる24時間稼働の高品質なセキュリティサービス運用の実績とノウハウ、情報などを預かる最高水準の安全性を誇るデータセンター、サイバーセキュリティやクラウドサービス提供の技術があり、昨年(株)TMJがセコムグループ入りしたことでセキュアなBPO*サービスを提供する体制も一層強化されました。セコムグループの総力を挙げて、これらの「つながる社会のセキュリティ」需要、「誰かに頼みたい」需要を先取りしてビジネスチャンスとし、セコムならではのサービスを提供し社会の生産性向上に大きく貢献していきます。

一方、社内においては二つの優先課題に対し、「最新テクノロジーを味方につける取り組み」「人財から選ばれ続けるための取り組み」として、人とシステムへの積極的な集中投資による将来に向けた自己変革 (SECOM-Transformation) に挑み、競争力を高めていきます。

最後に、株主の皆様へ

セコムはサービスイノベーションにチャレンジし続けていきます。今後、AI・IoTを活用し、省力化・省人化が進んでいても、人にしかできないことは必ず残り、その価値はより一層高まっていきます。そのため、セコムは“人”と“技術”という二つの無形資産を最も大切にしています。

セコムはこの資産を活用する能力を高める努力を続けていきます。それにより競争優位を確立し、持続的成長を加速させてまいります。

株主の皆様にもぜひこの想いを共有いただき、これからもセコムグループにご期待・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*バックキャスティング：未来の目標時点から振り返って、現在すべきことを考える方法

*BPO (Business Process Outsourcing)：効率化、生産性の向上などを目的として、データ入出力・処理業務などを外部に委託すること

「セコムあんしんフロー」を具現化し 「あんしんプラットフォーム」構想の実現を加速



セコムは昨年5月、外部環境が大きく変化し、不確実性の増す今日において、「社会システム産業」の構築を一層加速するために、「セコムグループ2030年ビジョン」を策定しました。このビジョンのもと、「あんしんプラットフォーム」構想の実現により、変わりゆく社会に変わらぬ安心を届けていきます。

● 「セコムあんしんフロー」で切れ目のない安心を

セコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にするパートナーが参加して、セコムとともに暮らしや社会に安心を提供する社会インフラが「あんしんプラットフォーム」です。

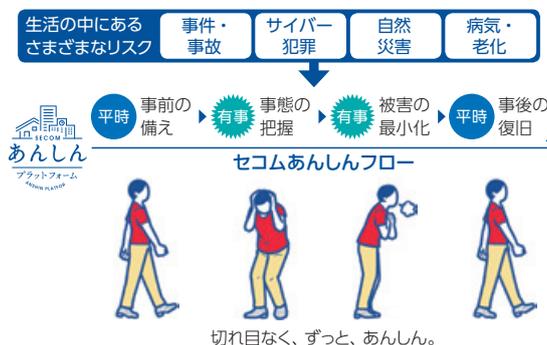
この「あんしんプラットフォーム」を通じて提供する安心の特徴の一つ、「切れ目なく、ずっと、あんしん。」を実現するための概念が「セコムあんしんフロー」です。

企業活動や個人の生活において、事件や災害など想定外の事態が起きると日常の流れが止まり、生産性は大幅に低下します。また、その被害が大きいほど復旧までの時間も長くなります。

つまり、命・健康、財産、情報などの守りたいものをおびやかす「事件・事故」「サイバー犯罪」「自然災害」「病気・老化」といったリスクに十分備えていない場合、万一の際に大きな被害を受ける可能性が高まります。

一方、これらのリスクに対し「事前の備え」、有事における「事態の把握」、「被害の最小化」そして「事後の復旧」の4つの要素が満たされていると、人は安心して生活を送ることができます。

セコムではこれらの4つの要素を「セコムあんしんフロー」と定め、あらゆるリスクに対して切れ目のない安心を提供できるようサービスを進化させていきます。



●ご家庭における「セコムあんしんフロー」の実現例

「事前の備え」「事態の把握」「被害の最小化」「事後の復旧」を「セコムあんしんフロー」によりワンストップで対応できるのがセコムの強みです。例えば、ご家庭においては次のようなかたちで切れ目のない安心を実現しています。

▶ 事件・事故リスクに対応する「セコム・ホームセキュリティ」



事前の備え → 事態の把握 → 被害の最小化 → 事後の復旧



侵入や火災などの異常を監視



異常発生時、信号をセコムへ送信



緊急対応員がご自宅まで急行



万が一、被害が発生した際は保険で補償

▶ 病気・老化に関するリスクに対応する「セコム・マイドクターウォッチ」



事前の備え → 事態の把握 → 被害の最小化 → 事後の復旧



活動量を計測し、日々の健康を管理



体調不良など救急時はセコムへ通報



緊急対応員がお客様のもとまで急行



必要に応じて訪問看護などを提供

今後も「セコムあんしんフロー」を具現化するサービスを生み出し、「あんしんプラットフォーム」構想の実現を目指します。

「セコムグループ ロードマップ2022」を策定

2030年ビジョンの策定から1年を迎えた今年5月、優先して取り組むべき課題を改めて明確化し、これらの課題に対して、将来に向けた自己変革とビジネスチャンスをつかむための集中投資を行うことで、2030年ビジョンに向けた成長を加速するために、2022年を一里塚として位置づけ「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。

▶ 詳細はセコムのウェブサイトでご覧いただけます。 [セコムグループ ロードマップ2022](#)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け 警備共同企業体が設立、セコムが共同代表に就任

● 高い注目を集めた設立式

4月3日(火)、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)に向けて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会警備共同企業体(以下、東京2020大会警備JV)が設立され、セコムが共同代表に就任しました。

同日には、東京・千代田区にある法曹会館で、「東京2020大会警備JV設立式」が開催され、多くの報道関係者が取材に訪れ、テレビのニュース番組や新聞各紙で報じられるなど高い注目を集めました。

● 業界一丸となって全力で取り組む

「東京2020大会オフィシャルパートナー」であるセコムは、東京2020大会の警備体制について、東京2020組

織委員会などと継続的に協議を行ってきました。

その結果、「安全・安心」な大会を実現するためには、セキュリティサービス&プランニングカテゴリーのパートナー2社のみではなく、ほかの多くの警備会社も参画するJV(共同企業体)方式を取り、「オールジャパン体制」で臨むことが最善であると判断し、東京2020大会警備JVの設立を決定しました。

セコムは日本初の警備保障会社として1962年に創業し、2年後の東京1964大会での警備をきっかけに飛躍的な発展を遂げ、今日の成長につながりました。

今回の東京2020大会は、その恩返しとして位置づけ、東京2020大会警備JVの共同代表としてしっかりとした役割を果たすとともに、業界一丸となって「安全・安心」な大会に貢献できるよう全力で取り組んでいきます。



共同代表と理事会、来賓による集合写真(左から8人目が当社社長の中山泰男)

先端技術を駆使した画期的なセキュリティシステムで「東京マラソン2018」の安全な大会運営に貢献

2月25日（日）に開催された「東京マラソン2018」において、セコムは先端技術を駆使したセキュリティシステムの提供を行い、大会の「安全・安心」な開催・運営を支援しました。

日本最大規模のマラソン大会である「東京マラソン」に、



沿道の警備にあたる隊員

セコムは2015年からオフィシャルパートナーとして協賛し、主要エリアの警備や最新セキュリティシステムの提供を行ってきました。

今大会でも、警備計画の立案においては「セコム3Dセキュリティプランニング」を活用し、高精度な3次元立体地図で警備エリアを分析することでリスクを予測。最適な警備計画の立案をサポートしました。

また、車両型の「移動式監視センター（オンサイトセンター）」を初導入し、セコムの隊員が装着したウェアラブルカメラや、コース沿いに設置した各種監視カメラから送られる映像を集約。リアルタイムに管理・分析することでコースや沿道の状況確認、隊員への現場指揮を行いました。

さらに、人工知能（AI）でカメラの映像を解析し、混雑状況の把握やコースへの侵入検知を行う「AI画像認識システム」を試験導入するなど、画期的なセキュリティシステムを提供し、「安全・安心」な大会運営に貢献しました。

不審物点検およびコミュニケーションが可能な自律走行型セキュリティロボットを開発

セコムは3月、自律走行型の巡回監視ロボット「セコムロボットX2」、およびコミュニケーションが可能な多機能ロボット「セコムロボットX3」の試作機を開発しました。

今回開発した2つのロボットは、2005年10月に発売した屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」の機能をさらに進化させたものです。

「セコムロボットX2」は、夜間など無人の施設を自律走行して巡回監視を行います。また、新たに搭載されたアー



セコムロボットX2

ムには赤外線センサーと熱画像センサー、金属探知機を内蔵し、不審な放置物やゴミ箱内を点検します。

「セコムロボットX3」は警備に加え、道案内や会話、迷子の搜索など多彩な機能を有したロボットです。人が多く集まる施設での利用を想定し、有人エリアを安全に移動できるように開発しました。



セコムロボットX3

なお、このロボットには（株）本田技術研究所がロボティクス研究で培った走行技術を取り入れています。

今後もセコムは、これまでに培ってきたロボット技術の知見とノウハウを活かし、異なる分野のパートナーとの“共想”も進めながら、「安全・安心・快適・便利」の向上につながる革新的なサービスを創出していきます。

こじ開けなどがあった時はセコムが駆け付ける 「セコムあんしん宅配ボックス」を発売

セコムは昨年12月、「セコム・ホームセキュリティ」との連携が可能なオプションサービスとして、不在時でも在宅時でも荷物を安心して受け取ることができる「セコムあんしん宅配ボックス」を発売しました。



不在時でも在宅時でも荷物を安心して受け取ることができる「セコムあんしん宅配ボックス」

本商品は昨年7月に発売した健康管理・救急対応サービス「セコム・マイドクターウォッチ」に続く、ホームセキュリティとIoT機器が接続するコネクテッドサービスの第2弾です。

電気工事が不要の宅配ボックスで、荷物保管中に扉のこじ開けなどがあった時はセコムの緊急対応員が駆け付けます。

また、宅配ボックスに荷物が収納されると、お使いのホームセキュリティのコントローラーやスマートフォンアプリ「SECOM Home Security App.」に通知が届きます。

さらに、万が一、宅配ボックスから荷物が持ち去られてしまった場合にも、「セコム・ホームセキュリティ」に付帯されている盗難保険から保険金が支払われます。

社会問題化している宅配便の再配達削減につながる商品で、今後もセコムでは、社会課題の解決に貢献する画期的な新しいサービス・商品の提供に努めていきます。

日本初、オンライン・セキュリティシステムと連動可能 履歴保持機能付き医薬品保管庫「セサモMBX」を発売

セコムは昨年12月、小型・軽量の履歴保持機能付き医薬品保管庫「セサモMBX」を発売しました。

本商品は、医療機関のスタッフステーション（ナースステーション）や手術室、救命救急センター、集中治療室など、薬剤部の外で一時的に保管している麻薬・向精神薬の厳格管理を実現する医薬品保管庫です。

麻薬の保管は、鍵をかけた堅固な設備内で行うことが法律で義務付けられており、施錠は2箇所以上が望ましいとされています。こうしたニーズに対し、「セサモMBX」はシリンダー錠とICカードを使う電気錠による2重の施錠が可能で、解錠の操作履歴の記録もできます。

また、セコムのオンライン・セキュリティシステムとの接続により、扉のこじ開けの監視や防犯カメラとの連動による映像の記録も可能です。オンライン・セキュリティシステムと連動した医薬品保管庫は日本初となります。

小型で軽量のため、設置スペースの限られたスタッフステーションや手術室などでも、棚の中に収納して設置でき、壁や棚に固定することもできるなど、安全性と利便性を両立させています。

今後もセコムでは、医療機関および患者様の「安全・安心・快適・便利」に貢献するサービス・商品の開発を進めていきます。



履歴保持機能付き医薬品保管庫「セサモMBX」

「国連グローバル・コンパクト」に参加 CSRへの取り組みをより一層加速させる

セコムは5月、「国連グローバル・コンパクト（以下、UNGC）」に署名し、参加企業として登録されました。

UNGCとは、世界が合意形成してきた共通価値観である「世界人権宣言」「労働における基本的原則および権利に関するILO宣言」

「環境と開発に関するリオ宣言」「腐敗の防止に関する国際連合条約」を整理して、人権・労働・環境・腐敗防止についての原則をまとめ、これを世界に浸透させることで、「健全なグローバル化」「持続可能な社会」を実現させようとする国際的な取り組みです。

UNGCに署名する企業・団体は、「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗の防止」の4分野に関わる10の原則に賛同する経営トップ自らのコミットメントのもとに、その実現に向けて取り組むことが求められます。

セコムは、企業と社会が持続的に発展することが重要であるとの考えを根底において、創業以来、事業を通じたCSRを実践していますが、UNGCへの参加を機に、より一層取り組みを加速させ、持続可能な社会の発展に貢献していきます。



UNGCへの参加を機にCSRの
取り組みをより一層加速させる

英国のセキュリティおよび防災業界最大の表彰制度で セコムPLCが「最優秀監視カメラシステム賞」を受賞

昨年11月、英国でセキュリティ事業を行うセコムPLCが、同国で開催された「セキュリティ・アンド・ファイア・エクセレンス・アワード2017」で、「最優秀監視カメラシステム賞（CCTVシステム・オブ・ザ・イヤー）」を受賞しました。

「セキュリティ・アンド・ファイア・エクセレンス・アワード」は、年1回開催される、英国の警備業協会、英国警察署長会議、セキュリティ業界誌などが主催する同国のセキュリティおよび防災業界最大の表彰制度です。

このたびの受賞は、セコムPLCが開発した犯罪事案の分析と監視カメラによる画像監視を融合させた新しい監視カメラサービス「ROGUES（ローグス）」の実績が高く評価されたことによります。

同サービスを導入した英国の大手スーパーマーケットでは、すでに高い犯罪抑止効果を挙げているほか、収集・蓄積した犯罪の証拠画像をもとに犯罪情報レポートを作成し、警察に提供することで、警察業務の効率化や犯罪の減少に貢献することが期待されています。

今後もセコムPLCは、英国のセキュリティ業界で第3位の会社として、英国全土で質の高いセキュリティサービスを提供していきます。

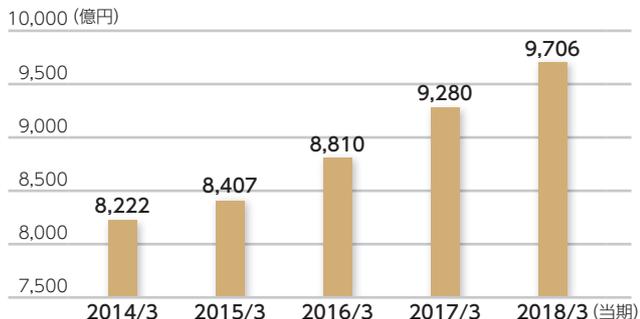


セコムPLCのコントロールセンター

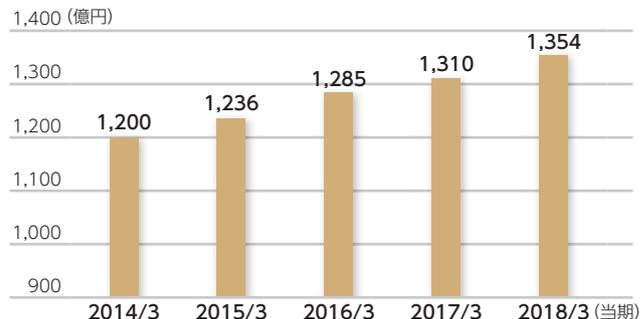
Review

連結決算 業績ハイライト

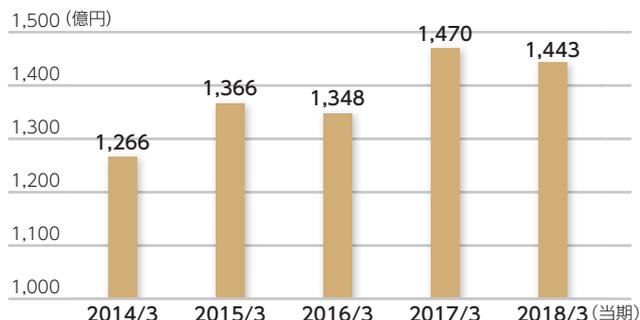
● 売上高



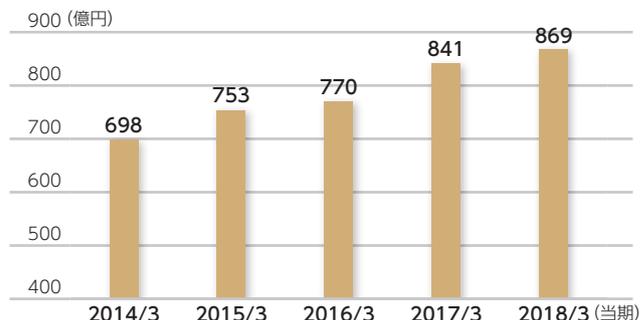
● 営業利益



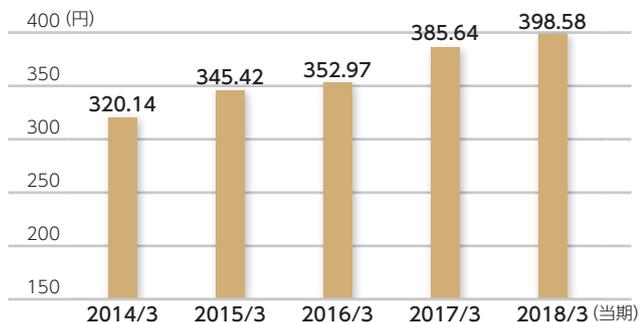
● 経常利益



● 親会社株主に帰属する当期純利益

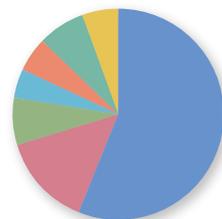


● 1株当たり当期純利益



● 事業別売上高内訳 2018/3 (当期)

事業	売上高 (億円)	割合 (%)
セキュリティサービス事業	5,457	56.2%
防災事業	1,365	14.1%
メディカルサービス事業	709	7.3%
保険事業	432	4.5%
地理情報サービス事業	509	5.2%
BPO・ICT事業	697	7.2%
不動産・その他の事業	533	5.5%



連結貸借対照表 (要旨)

2018年3月31日現在

(単位: 億円) *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部	流動資産	8,067
	現金及び預金	3,172
	現金護送業務用現金及び預金	1,358
	受取手形及び売掛金	1,299
	未収契約料	352
	有価証券	173
	リース債権及びリース投資資産	455
	たな卸資産	366
	販売用不動産	444
	繰延税金資産	146
	短期貸付金	51
	その他	245
	固定資産	9,135
	有形固定資産	3,736
	建物及び構築物	1,486
	警報機器及び設備	708
	土地	1,142
	その他	399
	無形固定資産	1,310
	投資その他の資産	4,088
投資有価証券	2,806	
長期貸付金	352	
退職給付に係る資産	414	
繰延税金資産	121	
その他	392	
資産合計	17,202	

負債の部	流動負債	3,575
	支払手形及び買掛金	439
	短期借入金	415
	1年内償還予定の社債	7
	未払金	401
	未払法人税等	258
	現金護送業務用預り金	1,138
	前受契約料	303
	その他	611
	固定負債	2,815
	社債	53
	長期借入金	127
	長期預り保証金	331
退職給付に係る負債	218	
保険契約準備金	1,723	
その他	360	
負債合計	6,390	
純資産の部	株主資本	9,247
	資本金	663
	資本剰余金	803
	利益剰余金	8,517
	自己株式	△737
	その他の包括利益累計額	278
	非支配株主持分	1,285
	純資産合計	10,812
	負債純資産合計	17,202

連結損益計算書(要旨)

(単位: 億円) *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	前期 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)	増減率
売上高	9,706	9,280	4.6%
売上原価	6,526	6,214	
売上総利益	3,179	3,066	3.7%
販売費及び一般管理費	1,825	1,756	
営業利益	1,354	1,310	3.4%
営業外収益	131	223	
営業外費用	42	63	
経常利益	1,443	1,470	△1.8%
特別利益	24	5	
特別損失	25	56	
税金等調整前当期純利益	1,442	1,418	1.7%
法人税、住民税及び事業税	548	433	
法人税等調整額	△93	23	
当期純利益	987	961	2.7%
非支配株主に帰属する当期純利益	117	119	
親会社株主に帰属する当期純利益	869	841	3.4%

● 営業の概況(連結)

当連結会計年度の日本経済は、企業収益や雇用情勢の改善に加え、個人消費の持ち直しもあり、緩やかな回復基調が続きました。一方、米国の各種政策の動向、中国をはじめアジア新興国等の経済の先行き、英国のEU離脱問題に伴う不透明感、地政学リスクの影響など、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意が必要な状況で推移しました。

このような状況の中で、“いつでも、どこでも、誰もが「安全・安心・快適・便利」に暮らせる社会”を実現する「社会システム産業」の構築を目指すセコムグループは、2017年5月に「セコムグループ2030年ビジョン」を策定しました。このビジョンのもと、“ALL SECOM”(セコムグループ総力の結集)を継続的に推進し、セコムグループが展開する各事業間の連携を深めるとともに、「あんしんプラットフォーム」の構築を進めております。当期も、さまざまな取り組みを通じて、ますます多様化・高度化するお客様の安心ニーズに対し、きめ細やかな切れ目のないサービスを提供することに努めました。

これらの結果、当連結会計年度における売上高は9,706億円(前期比4.6%増加)となり、営業利益は1,354億円(前期比3.4%増加)となりました。経常利益は1,443億円(前期比1.8%減少)、親会社株主に帰属する当期純利益は869億円(前期比3.4%増加)となりました。なお、売上高、営業利益および親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高を達成することができました。

(参考) ● 連結子会社数 179社
● 持分法適用関連会社数 18社
● 1株当たり当期純利益 398円58銭

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)
(単位: 億円) *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					その他の 包括利益 累計額	非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計			
当期首残高	663	802	7,974	△737	8,704	215	1,212	10,132
当期 変動額	新株の発行	0	0		0			0
	剰余金の配当			△327		△327		△327
	親会社株主に帰属する当期純利益			869		869		869
	自己株式の取得				△0	△0		△0
	自己株式の処分		0		0	0		0
	非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		0			0		0
	持分法の適用範囲の変動			0		0		0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						63	73	136
当期変動額合計	0	0	542	△0	542	63	73	679
当期末残高	663	803	8,517	△737	9,247	278	1,285	10,812

貸借対照表 (単体・要旨)

2018年3月31日現在

(単位：億円)

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部		流動資産	1,997
	現金及び預金	850	
	現金護送業務用現金及び預金	383	
	未収契約料	172	
	売掛金	109	
	たな卸資産	73	
	短期貸付金	280	
	その他	127	
	固定資産	6,879	
	有形固定資産	1,145	
	建物	161	
	警報機器及び設備	677	
	土地	220	
	その他	85	
	無形固定資産	66	
	投資その他の資産	5,667	
	投資有価証券	245	
	関係会社株式・出資金	3,526	
	長期貸付金	1,382	
	長期前払費用	206	
	前払年金費用	207	
	その他	98	
	資産合計	8,876	

負債の部		流動負債	1,102
	買掛金	41	
	短期借入金	219	
	未払金	206	
	未払法人税等	131	
	現金護送業務用預り金	164	
	前受契約料	203	
	その他	136	
	固定負債	284	
	長期預り保証金	166	
	退職給付引当金	21	
	その他	96	
	負債合計	1,386	
	純資産の部	株主資本	7,415
	資本金	663	
	資本剰余金	830	
	利益剰余金	6,658	
	自己株式	△737	
	評価・換算差額等	74	
	その他有価証券評価差額金	74	
	純資産合計	7,489	
	負債純資産合計	8,876	

損益計算書 (単体・要旨)

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位：億円)

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

売上高	3,878
売上原価	2,293
売上総利益	1,585
販売費及び一般管理費	803
営業利益	781
営業外収益	149
営業外費用	20
経常利益	910
特別利益	18
特別損失	3
税引前当期純利益	926
法人税、住民税及び事業税	246
法人税等調整額	2
当期純利益	676

(参考)

- 1株当たり当期純利益 310円15銭

Profile

● 会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-5-1

Tel: 03-5775-8100

Fax: 03-5775-8902

● 資本金 66,385百万円

● 社員数(グループ総数)

60,460名(2018年3月31日現在)

● 事業内容

1962年、日本初の警備保障会社として創立。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

また、常駐警備サービスや現金護送サービスの提供、各種安全商品の販売のほか、国際会議や大規模イベントで最新セキュリティシステムを活用した警備を行うなど、社会に「安全・安心」を提供しています。

今日、セコムグループは、社会にとって「安全・安心・快適・便利」なサービスを新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指し、セキュリティに加え、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、BPO・ICT、不動産の7つの事業を展開しています。

取締役(2018年6月26日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
代表取締役社長	中山泰男
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	中山潤三
常務取締役	尾関一郎
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司
取締役(社外)	廣瀬篁治*
取締役(社外)	河野博文*
取締役(社外)	渡邊 元*

監査役(2018年6月26日現在)

監査役(常勤)	伊東孝之
監査役(常勤)	加藤幸司
監査役(社外)	加藤秀樹*
監査役(社外)	安田 信*
監査役(社外)	横溝雅夫*

*印の6名を独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

執行体制(2018年6月26日現在)

● 取締役

代表取締役社長	中山泰男
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	中山潤三
常務取締役	尾関一郎
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司

● 執行役員

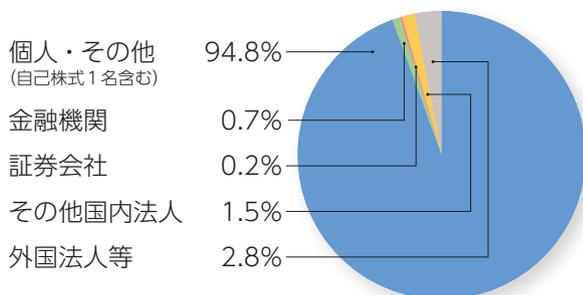
常務執行役員	古川 顕一
常務執行役員	竹田正弘
常務執行役員	水野都飽
常務執行役員	石村昇吉
常務執行役員	新井啓太郎
執行役員	杉本陽一
執行役員	福満純幸
執行役員	進藤健輔
執行役員	桑原靖文
執行役員	福岡規行
執行役員	赤木 猛
執行役員	佐藤貞宏
執行役員	上田 理
執行役員	山中善紀
執行役員	長尾誠也
執行役員	植松則行
執行役員	永井 修
執行役員	小松 淳
執行役員	御供和弘
執行役員	千田岳彦
執行役員	中田貴士
執行役員	森田通義
執行役員	稲葉 誠

Information

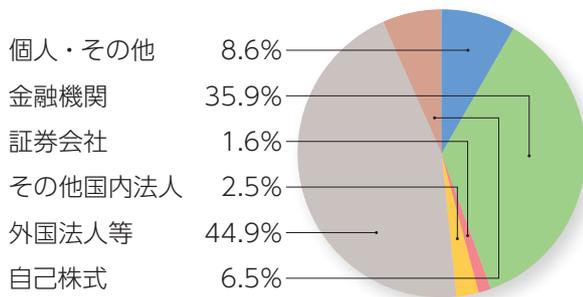
● 株式の状況 (2018年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数 900,000,000 株
2. 発行済株式の総数 233,290,441 株
3. 単元株式数 100 株
4. 株主数 26,809 名
5. 所有者別状況

● 株主数比率



● 株式数比率



● 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
- 株主優待制度 毎年3月31日現在における当社株式100株以上保有の株主様に、当社グループで利用可能な優待券を贈呈。
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告
<https://www.secom.co.jp/koukoku/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

● 株式に関する各種お手続きについて

- 証券会社に口座がある株主様は… □座がある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株式の株主様は… 下記の特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。
- 未払い配当金のお支払いに関するお問い合わせは… 下記の株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵送先
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式のお手続きに関する
お問い合わせ
 **0120-232-711**
[平日9:00~17:00]

信頼される安心を、社会へ。

SECOM

体調まで、
見守る。



急に具合が悪くなった
ら、専用端末を引っぱる
だけで、出先でもセコム
が駆けつけます。

スマホで、
見守る。



親御さんのお住まいの
セキュリティ状態を、
スマホで確認したり、
代わりに操作できます。

離れて暮らす親を、私の代わりに見守ってくれるから。

セコムして、よかった。

あなたの「大切」を、セコムする。



セコム・ホームセキュリティ NEO

お気軽にお電話ください。
パンフレットを無料でお届けします。

0120-025-756 24時間・年中無休

セコム株式会社

表紙写真のご説明

現在開発中の自律走行型セキュリティロボット。「セコムロボットX2」は夜間などに無人の施設を自律走行して巡回監視を行うロボットです。センサーを内蔵したアームを搭載し、不審な放置物やゴミ箱内の点検も可能です。「セコムロボットX3」は人ごみの中でも安全に移動ができ、警備に加え、道案内や迷子の搜索など多様なコミュニケーションが可能な多機能ロボットです。



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および植物性インキを使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

セコム コーポレート広報部 757-18-06-295

株主通信(No.132) 2018年6月発行 発行/セコム株式会社 東京都渋谷区神宮前1-5-1 TEL:03-5775-8100 FAX:03-5775-8902